



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 精工技研

コード番号 6834 URL <https://www.seikoh-giken.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上野 淳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 斎藤 祐司

TEL 047-388-6401

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円 20,169	% 51.4	百万円 4,844	% 184.2	百万円 5,114	% 176.7	百万円 3,886	% 190.4
2025年3月期第3四半期	13,321	12.5	1,704	165.1	1,848	133.5	1,338	236.7

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 3,781百万円 (148.1%) 2025年3月期第3四半期 1,524百万円 (67.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 435.50	円 銭 —
2025年3月期第3四半期	146.69	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円 37,943	百万円 31,329	% 82.2
2025年3月期	34,383	28,144	81.4

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 31,172百万円 2025年3月期 27,993百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 30.00	円 銭 —	円 銭 35.00	円 銭 65.00
2026年3月期	—	40.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	60.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日（2026年2月13日）公表いたしました「2026年3月期 期末配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円 30,000	% 50.1	百万円 7,000	% 148.5	百万円 7,200	% 141.7	百万円 5,400	% 142.7

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日（2026年2月13日）公表いたしました「2026年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| ④ 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

- |                     |
|---------------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） |
| ② 期末自己株式数           |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計）    |

2026年3月期 3Q	9,333,654株	2025年3月期	9,333,654株
2026年3月期 3Q	394,363株	2025年3月期	425,797株
2026年3月期 3Q	8,924,128株	2025年3月期 3Q	9,123,659株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P 3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、国や地域ごとに課題を抱えつつも、総じて回復基調を維持しました。米国では、中央銀行が利下げに転じたことで金融環境が緩和し、個人の消費支出が底堅く推移しました。欧洲ではエネルギー価格の安定とインフレ抑制が進み、段階的な利下げにより景気は緩やかに改善しました。一方、中国では電気自動車や精密電子部品等の製造業や輸出産業が経済成長を支えたものの、不動産市場の停滞と個人消費の鈍化が続きました。我が国においては、円安の影響でインバウンド需要が引き続き堅調に推移しており、観光関連を中心に非製造業の業況が改善しました。製造業も輸出関連を中心に堅調に推移ましたが、物価上昇に伴う実質所得の伸び悩みから個人消費には慎重な動きが見られました。

当社グループが関わる情報通信・エレクトロニクス市場は、生成AIの本格的な普及と通信基盤の高度化を背景にクラウド関連需要が拡大し、データセンター投資が加速しました。これに伴い、半導体やネットワーク機器の需要が増加した一方、サイバー攻撃の高度化・頻発化を受け、重要インフラや企業におけるセキュリティ体制の強化が喫緊の課題となっております。自動車関連市場は、電動化を巡る競争が継続する中、中国では過度な値引きを是正するための規制が導入され、また欧洲では中国製EVに対する関税の代替として最低輸入価格の枠組みが検討されるなど、価格・供給戦略の再構築が進みました。また、一部では車載向け半導体の供給不足が再燃し、自動車メーカーの一部では生産調整を余儀なくされる事態が生じました。

こうした中で当社グループは、進行中の中期経営計画『マスタークリーン2022』に基づき、「顧客接点の活性化」、「新製品・新技術開発の加速」、「ものづくり力の強化」、「経営基盤の強化」の各施策の遂行に努めました。

「顧客接点の活性化」に向けては、精機事業、光製品事業の両セグメントにおいて、展示会への出展やホームページの活用等を通じて新しい顧客と出会う機会を増やすべく努めたほか、既存顧客との密なコミュニケーションを通じて商談数を増やすことに注力しました。

「新製品・新技術開発の加速」に向けては、より幅広い領域で社会の進歩発展に貢献できる企業グループとなるべく、引き続き技術力の研鑽に取り組みました。精機事業では、住友重機械工業株式会社様と共同で開発した型内塗装技術「SSIMC」のシステム販売に向けて、引き続き技術課題の解消に努めました。光製品事業においては、データセンターなどでの超高速・高帯域幅の並列光伝送に用いる多芯光コネクタ等の開発を進めました。

「ものづくり力の強化」に向けては、タイに設立したSEIKOH GIKEN (THAILAND)において光信用部品の量産を開始したほか、高速・大容量データ通信に対応する次世代光通信デバイスの生産能力を増強するため、中国河南省に新たなグループ会社を設立する準備を進めました。

「経営基盤の強化」に向けては、ウォーキングイベントの開催や独自のポイント制度の導入等により健康経営の推進に取り組んだほか、引き続き温室効果ガスの排出削減やペーパーレス化等、環境維持に向けた活動に取り組みました。併せて、グループ内で訓練メールの配信やセキュリティ教育を実施し、従業員一人ひとりのリスク認識を高めました。これによりサイバー攻撃への対応力が向上し、グループ全体として情報セキュリティ体制の強化を図ることができました。

こうした結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、20,169,383千円（前年同期比51.4%増）となり、第3四半期連結累計期間の売上高としては過去最高となりました。昨年10月に株式会社エムジーを連結子会社化したことや、比較的採算性の良い製品の売上高が増加したこと等に伴い、営業利益は4,844,159千円（前年同期比184.2%増）となり、売上高同様、第3四半期連結累計期間として過去最高となっています。経常利益は、為替差益等の営業外収益を計上した結果5,114,668千円（前年同期比176.7%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,886,483千円（前年同期比190.4%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① 精機関連

精機関連では、自動車向けや電子機器向けの精密成形品や、成形品を効率的に量産するための高品質な金型、高い寸法精度が要求される金属部品等を顧客に提供しております。当第3四半期連結累計期間は、車載用センサー関連部品の売上は堅調に推移したものの、電気自動車向けの部品や、同部品を量産するための金型の売上が減少しました。一方、2024年10月に連結子会社化した株式会社エムジーは前連結会計年度の第4四半期より損益を算入しているため、当第3四半期連結累計期間は、同社の損益が純増となっております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の精機関連の売上高は7,438,263千円（前年同期比15.4%増）となり、当第3四半期までの累計売上高としては過去最高となりました。売上高が増加したことや原価低減に取り組んだ結果、営業利益は816,917千円（前年同期比130.6%増）となりました。

#### ② 光製品関連

光製品関連では、光通信用部品や同部品の製造工程、検査工程で使用する機器・装置、光電界センサーや光伝送装置、超小型樹脂レンズ等を顧客に提供しております。当第3四半期連結累計期間は、生成AIの普及拡大を背景に世界中でデータセンターの建設が進み、データセンター内に用いられる光通信用部品の売上が増加しました。また、光コネクタ研磨機や測定装置についても、人員体制の見直しや仕入先・外注先との関係強化を図ることでリードタイムを短縮した結果、売上を大きく増加させることができました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の光製品関連の売上高は12,731,120千円（前年同期比85.2%増）となりました。光コネクタ研磨機・測定装置の売上高の増加に伴い、営業利益は4,027,242千円（前年同期比198.2%増）となり、売上高・営業利益ともに第3四半期連結累計期間として過去最高となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は37,943,611千円となり、前連結会計年度末から3,560,441千円増加いたしました。流動資産は27,416,225千円となり、前連結会計年度末から3,374,081千円増加いたしました。その主な要因は、現金及び預金や受取手形及び売掛金、商品及び製品等の棚卸資産が増加したこと等に因ります。固定資産は10,527,385千円となり、前連結会計年度末から186,360千円増加いたしました。その主な要因は、車載部品を量産するための射出成形機や、光通信用部品の製造装置等の機械装置及び運搬具が増加したこと等に因ります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は6,613,870千円となり、前連結会計年度末から374,942千円増加いたしました。その主な要因は、未払法人税等が増加したこと等に因ります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は31,329,740千円となり、前連結会計年度末から3,185,499千円増加いたしました。その主な要因は、利益剰余金が増加したこと等に因ります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年11月13日に公表いたしました予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日発表の「2026年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、当第3四半期連結累計期間までの業績結果を踏まえ、期末配当予想も修正しております。詳細につきましては、本日発表の「2026年3月期 期末配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,072,417	15,145,852
受取手形及び売掛金	5,120,091	6,217,792
電子記録債権	729,424	749,237
商品及び製品	830,584	1,165,485
仕掛品	1,314,098	1,409,738
原材料及び貯蔵品	1,438,179	1,953,915
未収還付法人税等	7,179	—
その他	531,942	775,947
貸倒引当金	△1,772	△1,744
流動資産合計	24,042,144	27,416,225
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,959,948	9,023,105
減価償却累計額	△6,302,088	△6,418,161
建物及び構築物（純額）	2,657,859	2,604,944
機械装置及び運搬具	7,830,046	7,824,256
減価償却累計額	△6,361,405	△6,265,968
機械装置及び運搬具（純額）	1,468,641	1,558,287
土地	2,948,566	2,948,577
建設仮勘定	190,210	214,074
その他	4,805,571	4,940,809
減価償却累計額	△3,938,347	△3,925,419
その他（純額）	867,223	1,015,389
有形固定資産合計	8,132,501	8,341,272
無形固定資産		
のれん	484,626	447,347
その他	17,026	22,520
無形固定資産合計	501,652	469,868
投資その他の資産		
投資有価証券	503,746	544,602
投資不動産	864,469	854,476
その他	338,654	317,165
投資その他の資産合計	1,706,870	1,716,244
固定資産合計	10,341,025	10,527,385
資産合計	34,383,169	37,943,611

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	2,009,320	1,855,653
未払法人税等	570,753	787,335
賞与引当金	134,206	71,259
その他	2,072,250	2,461,507
<b>流動負債合計</b>	<b>4,786,530</b>	<b>5,175,755</b>
<b>固定負債</b>		
退職給付に係る負債	1,006,238	1,000,513
役員株式給付引当金	160,336	129,399
長期未払金	44,330	—
長期預り敷金	19,037	19,037
繰延税金負債	78,477	52,169
その他	143,977	236,995
<b>固定負債合計</b>	<b>1,452,397</b>	<b>1,438,114</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,238,927</b>	<b>6,613,870</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	6,791,682	6,791,682
資本剰余金	10,607,629	10,723,951
利益剰余金	10,221,979	13,434,229
自己株式	△1,796,855	△1,821,360
<b>株主資本合計</b>	<b>25,824,436</b>	<b>29,128,502</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	28,636	62,191
為替換算調整勘定	1,961,797	1,830,331
退職給付に係る調整累計額	178,746	151,851
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>2,169,180</b>	<b>2,044,374</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>150,624</b>	<b>156,863</b>
<b>純資産合計</b>	<b>28,144,241</b>	<b>31,329,740</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>34,383,169</b>	<b>37,943,611</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	13,321,641	20,169,383
売上原価	8,570,456	11,086,341
売上総利益	4,751,184	9,083,042
販売費及び一般管理費	3,046,543	4,238,882
営業利益	1,704,640	4,844,159
営業外収益		
受取利息	26,200	40,410
受取配当金	1,936	3,203
補助金収入	2,876	14,037
投資不動産賃貸料	51,277	51,769
持分法による投資利益	20	—
為替差益	64,163	170,240
その他	10,956	20,070
営業外収益合計	157,431	299,732
営業外費用		
不動産賃貸原価	12,014	23,059
持分法による投資損失	—	469
その他	1,638	5,694
営業外費用合計	13,652	29,223
経常利益	1,848,419	5,114,668
特別利益		
固定資産売却益	13,581	11,406
特別利益合計	13,581	11,406
特別損失		
固定資産売却損	—	158
固定資産除却損	—	7,955
特別損失合計	—	8,113
税金等調整前四半期純利益	1,862,000	5,117,962
法人税、住民税及び事業税	488,838	1,223,774
法人税等調整額	25,871	△11,836
法人税等合計	514,710	1,211,937
四半期純利益	1,347,289	3,906,024
非支配株主に帰属する四半期純利益	8,978	19,540
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,338,311	3,886,483

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,347,289	3,906,024
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,617	33,555
為替換算調整勘定	165,862	△131,466
退職給付に係る調整額	9,264	△26,894
その他の包括利益合計	176,745	△124,806
四半期包括利益	1,524,034	3,781,218
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,514,575	3,763,796
非支配株主に係る四半期包括利益	9,459	17,421

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	637,547千円	612,088千円
のれんの償却額	51,363〃	37,278〃

(セグメント情報等の注記)

**【セグメント情報】**

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	精機関連	光製品関連	合計
売上高			
外部顧客への売上高	6,448,125	6,873,515	13,321,641
セグメント間の内部売上高又は振替高	21,168	207	21,376
計	6,469,294	6,873,723	13,343,017
セグメント利益	354,278	1,350,361	1,704,640

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、株式会社エムジーの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「精機関連」において1,975,093千円増加しております。

## 3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「精機関連」セグメントにおいて、株式会社エムジーの全株式を取得し、連結子会社化しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、497,052千円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	精機関連	光製品関連	合計
売上高			
外部顧客への売上高	7,438,263	12,731,120	20,169,383
セグメント間の内部売上高又は振替高	53,801	-	53,801
計	7,492,064	12,731,120	20,223,185
セグメント利益	816,917	4,027,242	4,844,159

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容（差異調整に関する事項）

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。